

我が国の人口について

厚生労働省

[人口の推移、人口構造の変化](#)

[平均寿命、健康寿命](#)

[世帯構成の推移と見直し](#)

人口の推移、人口構造の変化

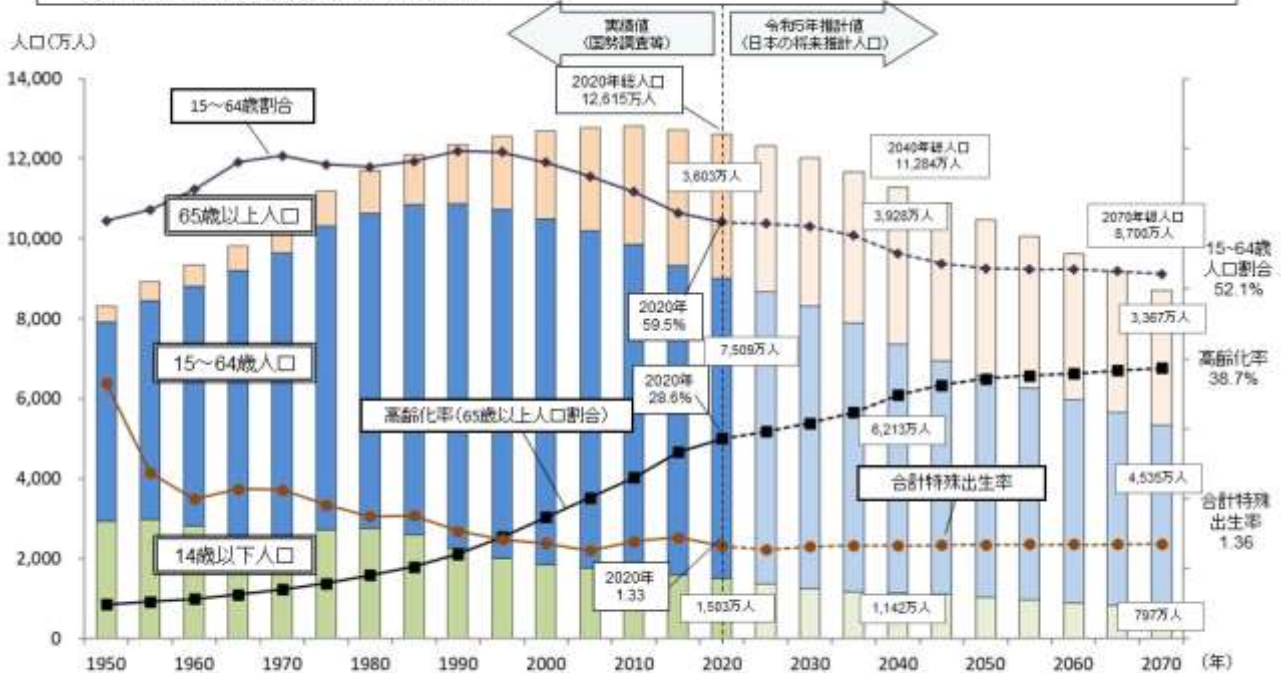
日本の人口は近年減少局面を迎えており、2070年には総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率は39%の水準になると推計されています。

また、団塊の世代の方々が全て75歳となる2025年には、75歳以上の人口が全人口の約18%となり、2040年には65歳以上の人口が全人口の約35%になると推計されています。

諸外国と比較しても、日本における少子高齢化の動きは継続しており、今後も、人口の推移や人口構造の変化を注視していく必要があります。

日本の人口の推移

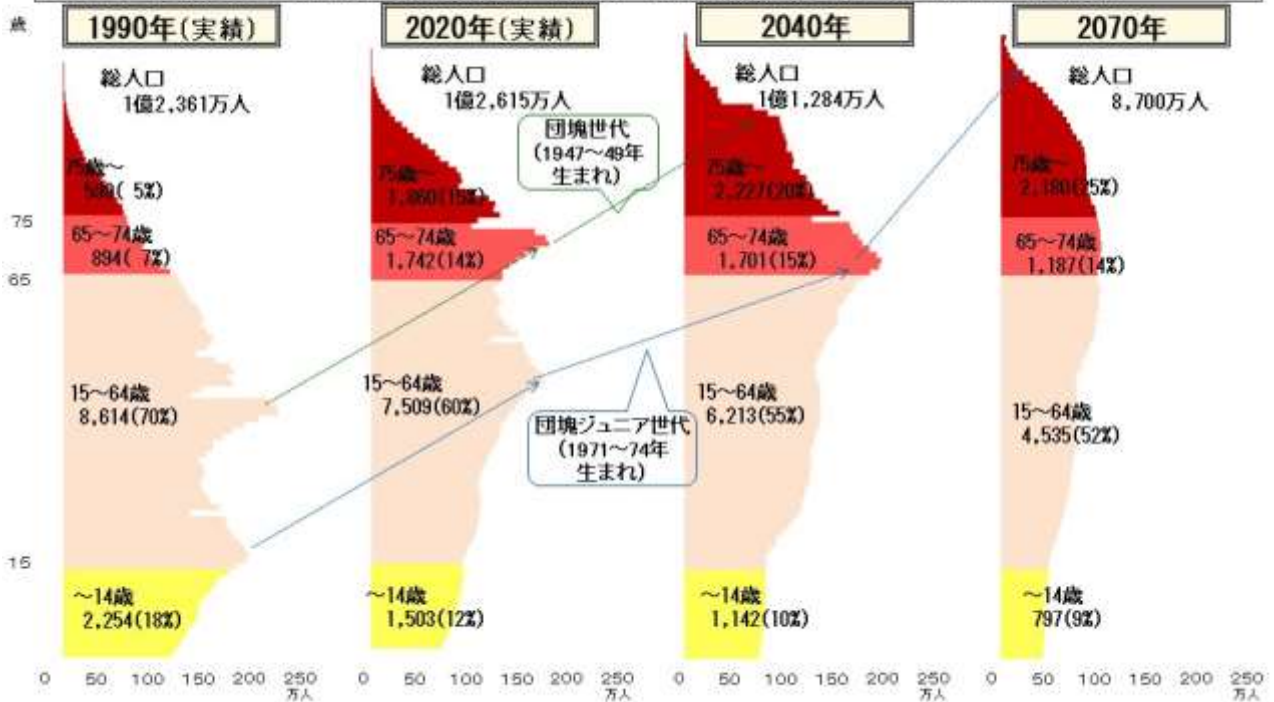
○日本の人口は近年減少局面を迎えている。2070年には総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率は39%の水準になると推計されている。



(出所) 2020年までの人口は総務省「国勢調査」、合計特殊出生率は厚生労働省「人口動態統計」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」「出生中位(死亡中位)推計」

日本の人口ピラミッドの変化

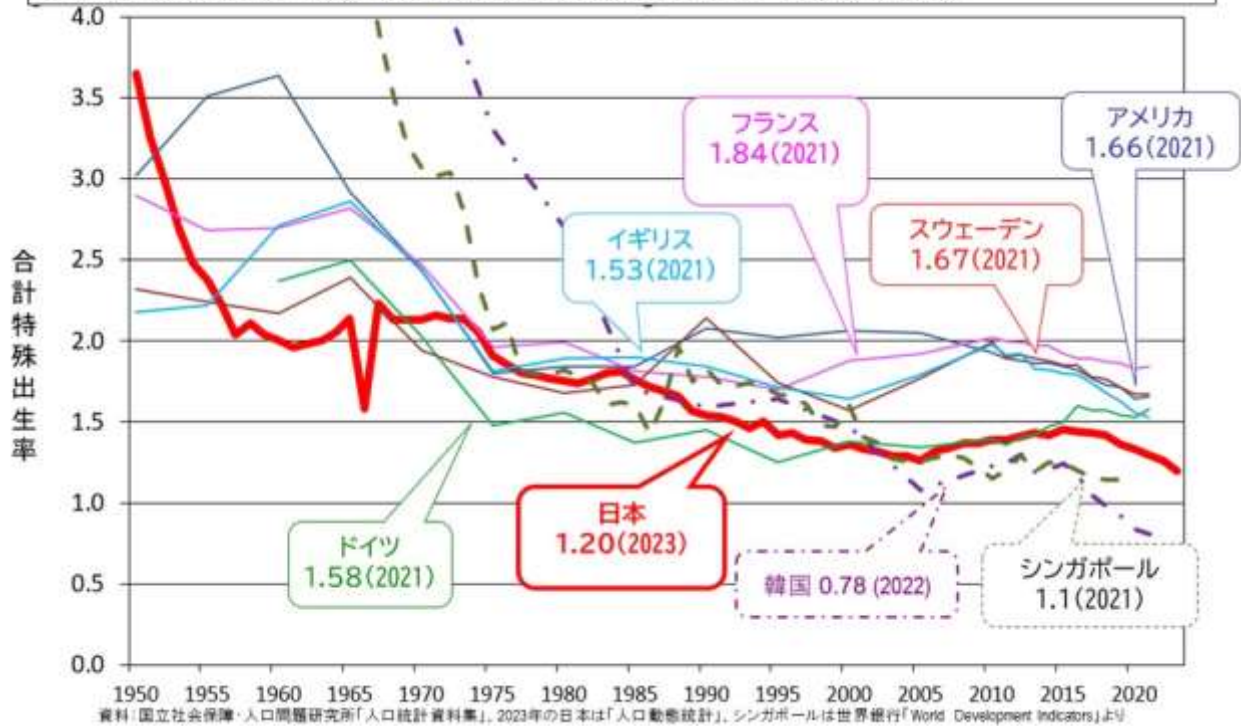
○団塊のジュニア世代が65歳となる2040年には、65歳以上が全人口の35%となる。
○2070年には、人口は8,700万人にまで減少するが、一方で、65歳以上は全人口の約39%となる。



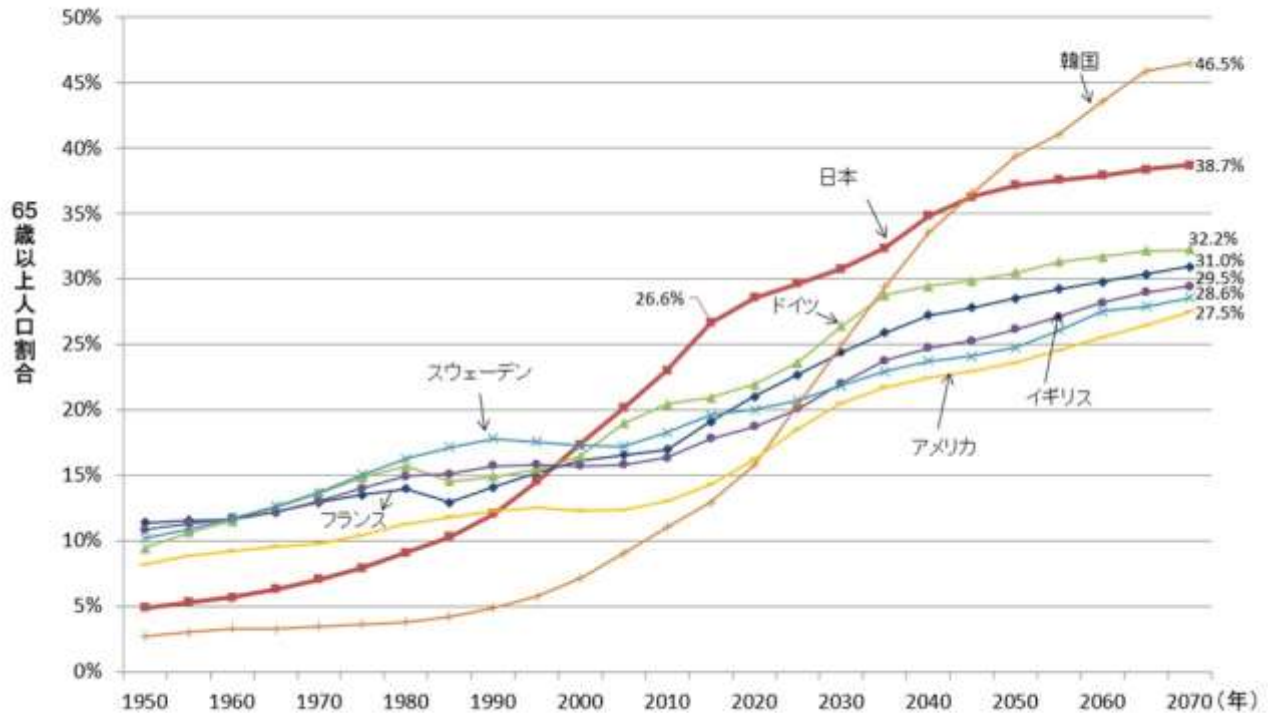
(出所) 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」「出生中位(死亡中位)推計」

諸外国の合計特殊出生率の推移

- 我が国の出生率は、ドイツ、南欧・東欧諸国、アジアNIESとともに、国際的に最低水準
- 2023年も1.20と依然として低い水準にあり、長期的な少子化の傾向が継続



65歳以上人口割合の推移



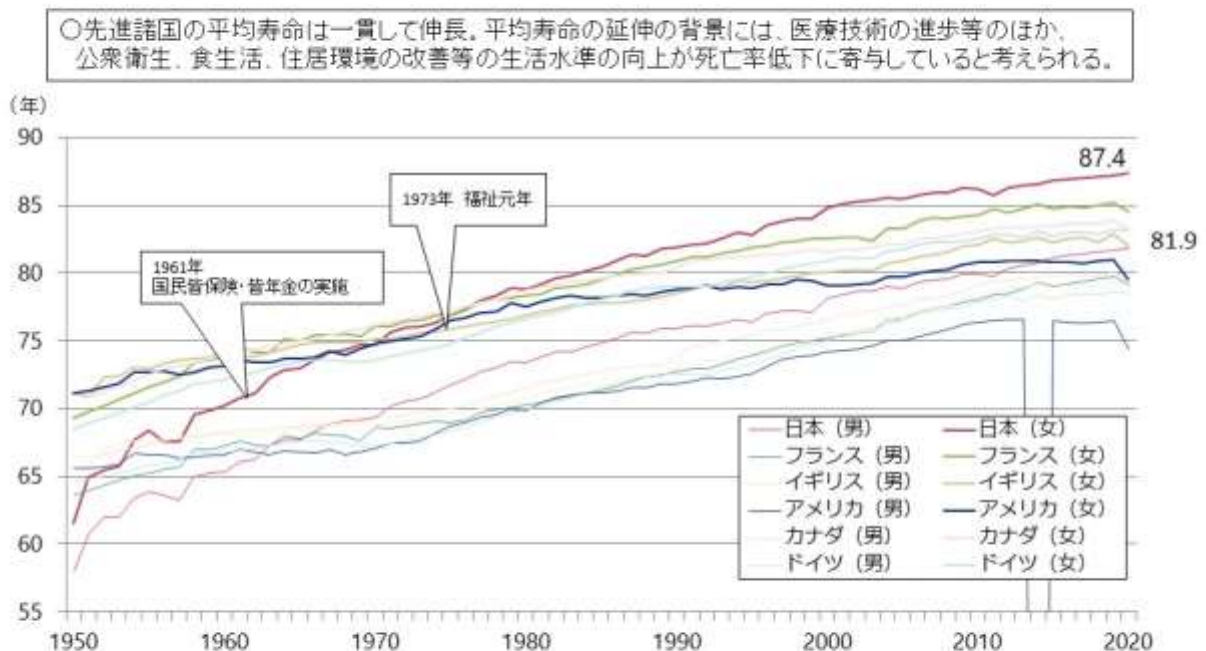
〈出所〉日本は、総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」（出生中位(死亡中位)推計）
諸外国は、United Nations: "World Population Prospects 2022"

平均寿命、健康寿命

医療技術の進歩等のほか、公衆衛生、食生活、住居環境の改善等の生活水準の向上により死亡率が低下し、先進諸国の平均寿命は一貫して伸長傾向にあります。

その中でも、日本の平均寿命や健康寿命（健康状態で生活することが期待される平均期間）は高い水準にあります。

主要先進国の平均寿命の推移



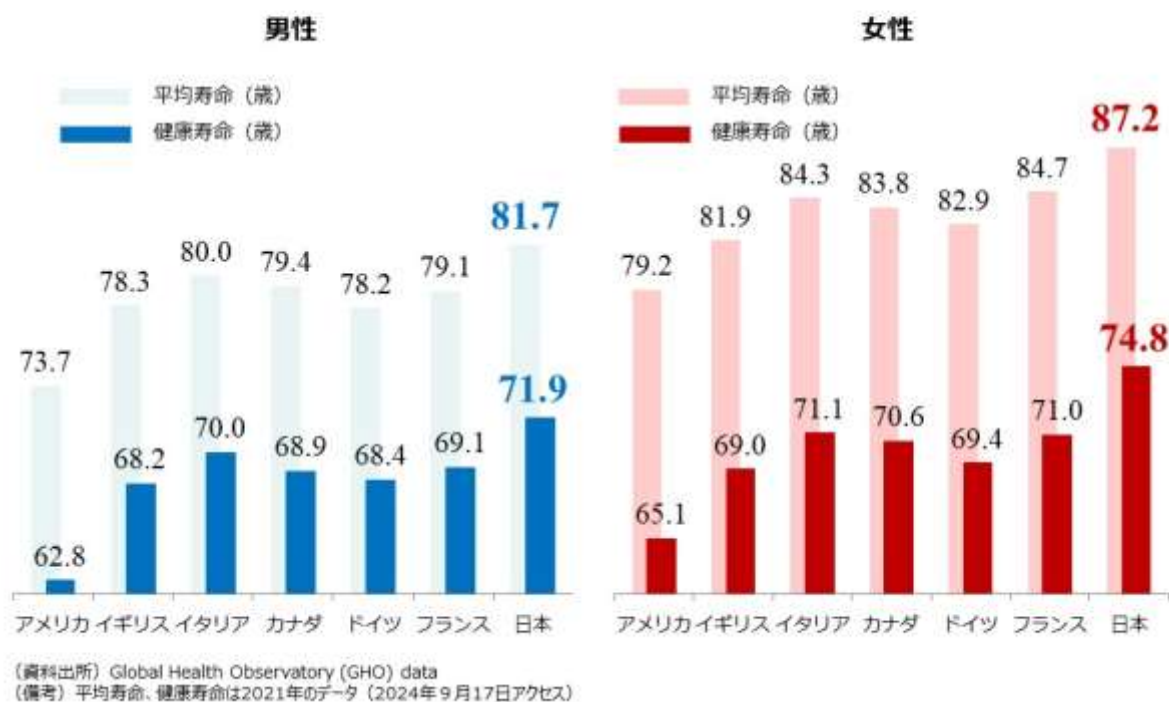
(資料) OECD「Health Statistics」、UN「Demographic Yearbook」

(注) 1. 1990年以前のドイツは、旧西ドイツの数値である。

2. 1982年以前のイギリスはイングランド(ウェールズ)の数値である。

平均寿命と健康寿命の国際比較

○日本は、先進7か国の中で、最も長い平均寿命、健康寿命となっている。



[資料 \(平均寿命、健康寿命\) \[676KB\]](#)

世帯構成の推移と見直し

日本の世帯構成については、単身世帯、高齢者単身世帯、ひとり親世帯ともに今後も増加することが予想され、単身世帯は、2040年で約4割に達する見込みです。

人口の推移、人口構造の変化に加えて、人口の問題に関連して、世帯構成についても着目すべき点の一つです。

世帯構成の推移と見通し

○単身世帯、高齢者単身世帯(※1)ともに、今後とも増加が予想されている。
 単身世帯は、2050年で44.3%に達する見込み。(全世帯数約5,570万世帯(2020年))



(出典) 総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)(令和6年推計)」
 (※1) 世帯主が65歳以上の単身世帯を、高齢者単身世帯とする。
 (※2) 全世帯数に対する高齢者単身世帯の割合はグラフのとおりだが、世帯主年齢65歳以上世帯に対する割合は、35.2%(2020年)から45.1%(2050年)へと上昇。
 (※3) 子については、年齢にかかわらず、世帯主との続き柄が「子」である者を指す。

[資料 \(世帯構成の推移と見通し\) \[344KB\]](#)

お問い合わせ先

制度について 厚生労働省 政策統括官(総合政策担当) 付政策統括室 政策第一班 TEL:03-5253-1111